



# 国内対策の飛躍的推進と新しい国際合意へ

## Road to Copenhagen

迫り来る地球温暖化による破局を避けるために、世界的に大きな政治と社会のうねりが起きています。しかしながら、国内では、政府が抜本的な対策を進めることができず、温暖化ガス排出量は増え続け、京都議定書で約束した6%削減の達成も危うくなっています。私たちは、市民レベルから政府を動かし、実効性ある温暖化防止の対策をとらせるために、連携を広げ、訴える声を大きくしていこうとしています。

### MAKE the RULEキャンペーンを前進させよう

昨年、気候ネットワークはじめ国内の環境団体が多数結集して、MAKE the RULEキャンペーンが始まりました。2050年には1990年比で国内CO2排出量を80%削減することを目指して、中期的数値目標、排出権取引、炭素税、自然エネルギーの推進などの政策的手段を駆使することを提唱するもので、国会への請願署名・地方議会での意見書決議の要請を全国レベルで展開してい

ます。わかやま環境ネットワークも、このキャンペーンの実行委員として参加しています。

### 「COP15ネットワーク関西」に結集しよう

今年12月にデンマークのコペンハーゲンで開かれる気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)は、京都議定書以降の国際的取り決めを話し合うもので、まさに人類の未来がかかった大切な会議です。この会議で、日本政府が温暖化防止の旗振り役となるのか、あるいは足を引っ張る方になるのかは、国民の温暖化防止の声がどれだけ大きいかにかかっています。

私たちは、温暖化防止の声を草の根から広げようと、「温暖化防止COP15ネットワーク関西」の結成準備を進めています。ここでは、COP15での国際的合意を求め、自ら可能な方法で地球温暖化対策に取り組む団体が結集することを求め、3月7日「ネットワーク関西」設立の集い・3月8日「ネットワーク関西」に集った和歌山の皆様の集いを呼びかけていきます。

(4面に続く)

答している。日曜の朝が毎週つづられてはたまらないから事前にまとめて収録するのだが、今回の収録では三月一日放送予定で取り上げた「中国など途上国でも再生可能エネルギー導入は活発と聞くがどの程度か？」との質問が、回答する方としては最もエキサイティングだった。

質問された方は恐らく、悠々と最先端をゆく日本から、はるか遅れて後を追う途上国の状況はどうかねえといった感覚で尋ねられたのだと思うが、実は日本の再生可能エネルギー政策や投資額は世界でも最後進レベルだ。

例えば、〇七年のデータで再生可能エネルギーへの投資はEUが世界の五割を占め、米国が同二割、これに中国、ブラジル、インドが続くといった構図で、我が日本は単独の国として順位に名が出るまでいかず、「その他のOECD諸国」という集合カテゴリーで十把ひとからげに勘定されている。国別で一位はドイツ、それに続くのが米国と中国で、日本は遙かに後塵を拝する位置なのだ。

さらに最近発表された〇八年新設の風力発電の出力データをみると、米国がダントツ一位で、

この結果、風力発電の総出力でドイツを抜き世界一になった。これに中国が続く二カ国で全体の半分を超える。え？日本？驚かすな、なんと中国の十八分の一に過ぎないのだ。この目もくらむ大差。経団連&経産省あたりが「日本は新エネルギー先進国」などというのは、これらのデータを読む限り幻想かデマということになる。

注目すべきは、この「百年ぶり」とかいう経済危機でも、世界の再生可能エネルギー投資はむしろ数少ない成長分野として勢いを増していることだ。米国は経済危機の震源地でありながら、風力発電投資を前年比で五割も増やしている。オバマが言うグリーン・ニューディールはすでに、「先ずれば人を制す」実体経済の世界では構想などではなく、助走から全力疾走の段階に突入しようとしているのだ。

## 世界に遅れる日本の再生可能エネルギー

(重稿)

# 自然をみて、生き物から学ぶ

「いきものみつけ」シンポに100人参加

09年2月8日(日)、和歌山県立図書館文化センターで、「いきものみつけ」シンポジウム～自然をみて、生き物から学ぶ～を開催しました。自然を愛する人たちが会場いっぱいの約100人集まりました。日高高校生物部の生徒や、小中学生もたくさんご参加いただき、熱気あるものとなりました。

まず、このイベントのため東京からかけつけてくださった、「いきものみつけ」キャンペーンディレクターのマエキタミヤコさんが主催者としてご挨拶。その後、基調報告として、3名の方にお話をいただきました。南紀生物

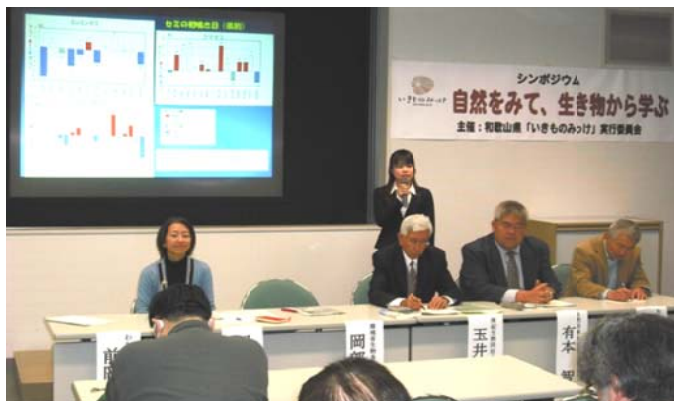


基調報告する玉井先生

同好会会長・(財)天神崎の自然を大切にする会専務理事の玉井済夫さんは、「和歌山県の自然の変化の諸要因について」報告いただきました。大塔山の頂上が伐採され、その影響で隣接する、本州で一番南に位置するブナの森が枯れはじめていること。アカウミガメの産卵を取り巻く環境の悪

化や、天神崎にナガウニやクロウニ等、南方系のウニ類が増加していること。田辺の溜池に外来種のアフリカツメガエルが生息していることなど、和歌山の自然の事実を詳しくご報告いただきました。そして、そうした状況に私たちがどう向き合い、今後、どう取り組むべきか、私たちの環境保護のあり方や自然観を問う、和歌山の自然をみつめ、保護のための運動をされてきた、玉井さんならではの熱っぽい講演となりました。

次に、自然回復を試みる会ビオトープ孟子理事の有本智さんからは、ビオトープ孟子のベンチに巣作りしたシジュウカラを通して見えてくる子どもたちの「感性」などについて報告をいただきました。昨年3月末から巣立ちした5月までの2ヶ月、ビオトープ孟子にはたくさん



シンポジウムのパネリスト (左端：マエキタミヤコさん)

の子どもたちが訪れ、生き物の名前や知識を学びながらも、5分おきに青虫をくわえて巣にもどってくるシジュウカラとそのヒナの姿に、誰1人として気付かなかったそうです。こうした観察を通して、「環境教育のあり方」についての危機感を覚えたこと。幼い頃に自分で生き物を探して見つけるという体験なくして、知識の積み上げだけでは限界があることを提起されました。森や山、身近にある生き物を自力で見つける感性をはぐくむキッカケとして、子どもたちが「いきものみつけ」に取り組み、そこで集めた「いきものみつけ」データを使う存在になってほしいとお話されました。

和歌山市こども科学館専門教育監補の土井浩さんは「磯やけ」について、自身が歩いて観察した73カ所の湾で「磯やけ」（「磯やけ」とは海藻が育たない状態のことで水温の上昇や川の汚れなどが原因と考えられる）を調査し、進行中の実態を地図にして示してくれました。黒潮が南から貧栄養の水を運び、しかも水温の高い黒潮が紀伊半島の磯を温めていることが大きく影響しているそうです。そのため、イセエビやアワビの漁獲高も減っているということなどの報告がありました。

全体討論では、生物多様性センターから「いきものみつけ」生き物調査の報告。それについて講師のみなさんから意見を頂き、質疑応答となりました。「いきものみつけ」についての質問から、昨今の自然観察についての質問を通して改めて「生き物を見つける感性」の重要性について確認する機会となりました。



# 地域の温暖化対策④

## 地球と共生する街

### ・『エコランドはしもと』づくり

橋本市地球温暖化対策協議会代表 佐藤 俊

1年前に、「推進員」（第4期生）に任命されたものの、『地球温暖化防止活動の推進』をするって、一体何をしたらいいのか正直不安でした。古い話ですが、高木善之さんと共にネットワーク「地球村」を立ち上げたのは17年前。各地で熱心に講演会や啓発活動をしてきましたが、温暖化は「当時の科学者の予測」をはるかに超えて加速しています。これでは「将来世代に対する責任」を果たせません。・・・もともと、すでに市民の努力のレベルを越えて、国が「太枠の」仕組をつくらなければ結果が出せないのかも知れません。

とにかく、地球温暖化を食い止め、次世代に美しい環境を残すために、市民・企業・行政が一体となる。まず自分が住んでいる地域から行動を始める必要があると思いました。

橋本市って、若干目立たない存在ですが、和歌山県の



玄関口。霊峰「高野山」への古い街道が南北に通る、東西には奈良時代以前から大和街道が開け、紀ノ川に沿って数多くの万葉の歌枕

がある。なんと千数百年の歴史を刻む「クロスロード」なのですと書くと一転、地域を見る目が変わります。

空気がきれい、水が豊か、緑がまぶしい。ここで生まれ育った子どもたちが「いつか帰ってきたい」「ここに住みたい」と思えるまちづくりこそが重要なのではないかと。ここは、大宮人をもてなし、京・大阪からの旅人を癒した「なごみの里」であったはず。「推進員」としてできることは、地域の「宝物」を掘り出し、その良さを伝え、地域に適した「まちづくり」をすることではないか、と。

橋本市では「循環社会づくり」がすでに始まっています。家庭からの生ゴミは堆肥化され、ゴミ収集回数が半分になっている自治会がたくさんあります。「ゴミゼロ宣言」と花いっぱい運動が始まっています。（‘08わかやま環境大賞受賞）

昨年10月には、推進員10名一丸となって、行政や事業者と対話を進め、準備会を経て「橋本市地球温暖化

対策協議会」を立ち上げました。現在、会員は250名。今まさに橋本市を『エコランド』にする取り組みが始まっています。

現在進めてい

るの事業の一つは「緑のまちづくり」。市の北方に広がる棚田・里山を保全すること。『日本の原風景』を再生するプロジェクトとして県の委託事業として取り組んでいます。中核は「はしもと里山保全アクションチーム」。市民がのべ30人、行政職員も毎回参加し、「いい汗流して里山保全」をやっています。また、環境教育の一環として子どもたちも参加。自然の体験や田植えから収穫までの年間を通しての農業体験。のべ100人を越える参加がありました。

かつての「耕作放棄地（遊休地）」は市民の力で切り拓かれ、美しい里山が戻りつつあります。地主や地元だけの問題ではなく、里山を残すことは市民にも応分の責任があることと思います。今年は、子どもたちもたくさん参加して、いろんな野菜や米を育てようと夢が弾んでいます。

「協議会」のもう一つの事業の柱は循環型社会づくり。廃油の回収リサイクルとゴミ減量への行政の取り組みと連動する。さらにクリーンエネルギー（太陽光パネルによる発電）を企画。そして市民のリユースバザーと「もったいない運動」の展開。3月には「環境展示」と啓発活動を予定し、4月の「地救ふお〜らむin高野山」に合わせて「パーク&ライド」を実現したいと計画中です。『クリーンなまちづくり』と『グリーンのまちづくり』によって、「地球と共生する街」和歌山県橋本市を全国発信します。

（はしもと里山保全アクションチーム 事務局長）



# 「地救ふお〜らむin高野山」を みんなの力で成功させよう！

そして、COP15へ向けて市民運動の陣列を整え、一気に世論を盛り上げるために、わかやま環境ネットワークが提唱し、MAKE the RULEキャンペーン実行委員会、温暖化防止COP15ネットワーク関西、財団法人雑賀技術研究所を主催団体に加えて、高野山大学を舞台に、温暖化防止をテーマとした国内では最大規模のフォーラムを開催します。

・4月25日～26日 新しいルールで、地球をク〜ルに。地救フォーラムin高野山に、あなたの仲間とともにぜひご参加下さい。

★国会への請願署名…個人で集めて、MAKE the RULE実行委員会又はわかやま環境ネットワークから国会へ、本年5月をめどに提出します。署名簿は、MAKE the RULEのホームページからダウンロードできます。

★地方議会での意見書決議の要請…自分の住む市町村議会へだれでも請願することができます。意見書決議の文書は、MAKE the RULEキャンペーン実行委員会のホームページからダウンロードできます。

★賛同団体の募集…団体としての賛同署名を集めています。法人格を問わず、どんな小さな団体でも結構です。もちろん企業もOK。賛同団体名は、ネットワーク関西のホームページ <http://2050earth.org/> に掲載します。趣意書及び署名用紙は、同ホームページからダウンロードできます。

## ★「COP15ネットワーク関西」設立の集い

3月7日(土)午後1時～4時 大阪歴史博物館4階講堂にて

※「地救フォーラムin高野山」の概要については、別添のチラシをご覧ください。

## ★「ネットワーク関西」和歌山のつどい

3月8日(日)午後1時～4時

和歌山県立図書館2Fメディアアートホール

### 「温暖化防止COP15ネットワーク関西」

## 和歌山のつどい

地球温暖化の現状とCOP15(12月7日～12月13日)の意義、日本に求められる役割などについて正確に理解するとともに、斉藤節夫環境大臣やデンマーク大使を迎え、私たち和歌山が中核として開く「地救ふお〜らむin高野山」(4月25日～26日)に向けた取り組み方向について協議するため、以下のとおり、「温暖化防止COP15ネットワーク関西」に参加された和歌山県内の団体が集まる機会を設けました。

今回、講師を務めてくださる早川光俊氏は、1996年開催のCOP2(ジュネーブ)から昨年のCOP14(ボストン)まで全大会に参加されており、地球温暖化をめぐる国際交渉の生き字引のような方です。また浅岡美恵さんは日本の温暖化防止活動をリードする国際NGOの代表として、新聞やテレビでの発言でもおなじみです。お二人の話を聴いてお聞きできるチャンスはそうありません。ぜひ、お気軽にご参加ください。

加速する温暖化、まだ間に合う  
コペンハーゲンで決めよう「地救」のルール

講演1 「地球温暖化の現状とCOP15の意義」

早川光俊氏

地球温暖化と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)専務理事  
弁護士



講演2

「低炭素経済へ日本の課題」

浅岡美恵さん

気候ネットワーク代表・弁護士

■ 協賛事項：和歌山県内での地球温暖化防止活動と「地救ふお〜らむin高野山」について

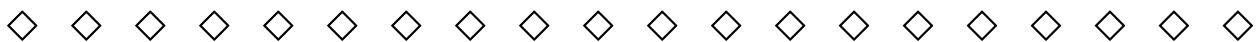
日時：2009年3月8日(日) 午後1時～4時

場所：和歌山県立図書館2F メディアアートホール  
(和歌山市西高松)

連絡先/わかやま環境ネットワーク

TEL.073-432-0234 FAX.073-432-3881 <http://wenet.info/> email [wenet@vaw.ne.jp](mailto:wenet@vaw.ne.jp)

2月11日(祝)にビッグホールで行われた「わかやま“元気”1万人フェスタ」でシロコマの「シロベエ」(MR実行委員長)が活躍



### 【4月の「フォーラムin高野山」へ向け会員を増やしましょう！】

今年度から会費を個人1,000円、NPO・市民団体2,000円、企業10,000円に引き下げ、広く会員を募集することを決めました。4月の高野山フォーラムへ向け、会員を大いに増やし、イベントを成功させましょう。また、今年度から環境教育や自然環境の事業を展開しており、環境問題に関心のある市民の方々を幅広く結集するチャンスです。ぜひ、みなさんの周りの方に声をかけてください。



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第14号 (2009年2月20日発行)

発行：NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重柄 隆

〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4

電話 073(432)0234 FAX 073(421)6545

mail: [wenet@vaw.ne.jp](mailto:wenet@vaw.ne.jp)

<http://wenet.info/>